

△今日の学習のポイント△

自分が見たり聞いたり体験したりしたことやそれに対する感想を、自由な形式で書いた文章を随筆といいます。

今日は次の、平成十八年三月に行われた「ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)」という野球の試合を、テレビ視聴した筆者の文章を読み、筆者が感動したこと、**「ジャウを動かした」となどを考えながら、読んでみましょう。**

△基礎トレーニング△

- ① 声を出して何度も読んでみましょう。
- ② 筆者は、どんなことに感動していますか。そう思える本文中の箇所、赤ペンでサイドラインを引いてみましょう。

最高視聴率五十六パーセント、平均でも四十三パーセント、ワールド・ベースボール・クラシックは、日本チームの優勝という、日本にとって最高の盛り上がりを見せ、野球ファンのみならず、国民皆の興奮のつぼの中に、その幕を閉じました。

帰国した王監督は記者会見で、「ファンの熱い声援が、響くように伝わってきた。やるんだ、という気持ちにさせてくれた。」と、ファンの応援に感謝の意を表していました。また、イチロウ選手の、韓国戦敗戦後の相手ベンチに向かってはき捨てるようにさげんだ姿や、韓国の応援席からブーイングを受けながらも、敢然と戦おうとする態度は、日本国内のファンの琴線に触れたに違いないと新聞は伝えていました。

さらに、WBCを中継した日本テレビは、「歴史に残る一戦を放送できた。日本テレビにも風が、いや嵐が吹いた！」と社員・スタッフ一同歓喜している。」とのコメントを出したそうです。まさに「春一番」、日本のプロ野球開幕前の喜びと誇りの嵐だったのでしょうか。

注意する言い回し

ブーイングを受けながらも

敢然(かんぜん)と戦おうとする

琴線(きんせん)に触(ふ)れた

歓喜(かんき)している

△補充トレーニング▽

○ 前のページの文章を読んで次の問に答えましょう。

① 文章を音読するとき、強く力を入れて読みたくなるのはどこですか。読みながらそのところを黄色いマーカーペンで記してみましょう。

② 文章の中の、次の言葉の意味を国語辞典で調べたり、おうちの人に聞いた
りしてみましょう。

i 盛り上がり

ii 興奮のるつぼの中

iii 敢然と戦おうとする

iv 琴線に触れた

v 歓喜している

v 春一番

③ 文章の中にある、筆者が、ある新聞記事を読んで感動したのは、どういうことに対してか、その分かる箇所を、えんぴつで囲んでみましょう。

○ 音読・朗読

音読をすると、黙読のときとはちがった文章の味わいがあります。

次のようなことに気をつけながら、もう一度声を出して読んでみましょう。

〔1〕姿勢はいいですか

声を出して読むときは、背筋を伸ばし、肩の力をぬき、あごをひいて、はつきりとした発音で読みましょう

〔2〕強く読んだりゆっくり読んだりしてみよう。

文章の内容や、表現の特色を考えながら、強く読んだりゆっくり静かに読んだりしてみましょう。

△向上トレーニング△

先日、私は地域少年野球チームの会合に出席することになり、そのチームの監督、コーチそして保護者の皆様としばらくの時を過ごしました。そのときの、監督さんのお話、「子どもたちに、ファンを大事にしなさいと言っています。子どもたちのファンというのは、両親、家族、知り合いの人、自分を応援するすべての人のことです。お父さんやお母さんに、今日の試合は見にくるな、なんて言うのではなく、ファンに一生懸命な姿を見せてこそ人は成長するものだ、と言っているのです。」

いろいろな場面で子どもたちは、「ファン」に見守られ激励されて育っています。監督さんの素敵な言葉に、私は「そうだ」と心の中で手を打ちました。

○「この文章は、先の文章の続きの文章です。よく読んで次の問に答えてみましょう。」

- ① 声を出して読んでみましょう。
- ② ①で読んだ文章にこの文章をつなげて、通して読んでみましょう。
- ③ 特に、ここに登場する「監督さん」の言葉を、この監督さんになったつもりで、声を出して読んでみましょう。
- ④ 監督さんの言葉の中に、「この野球チームの「少年」のものと思われる言葉があります。それを青いマーカーペンで塗ってみましょう。
- ⑤ 筆者の「私」は、「監督さん」にどのような思いを持ったと思いますか。そのことが表現されている箇所を、緑のマーカーペンで塗ってみましょう。
- ⑥ ①で読んだ文章とこの文章をつなげて読んで、どのようなことを感じましたか。あなたの思いを、一〇〇字くらいで自由に書いてみましょう。
- ⑦ あなたのおうちの皆さんは、この文章の試合のことを知っていましたか。インタビューしてみましょう。

△今日の学習のポイント△

文章の要素を「絵」にしたりして、理解を助けましょう。

△基礎トレーニング△

次の文章を画用紙に絵を描きながらゆっくり読んでみましょう。

ご存知、七月七日は七夕。広辞苑（こうじえん）には「五節句の一つ。天の川の両端にある牽牛星と織女星とが、年に一度会うという、星を祭る年中行事。中国伝来の風習と日本人の神への信仰とが合わさったものである。奈良時代から行われ江戸時代には民間にも広がった。」というようないことが書いてある。中国伝来の風習は、女子の手芸がうまくなる祭事であり、日本人の信仰は、「たなばたつめ」伝説で、手仕事の上達や書くことの上達を祈るものでした。

平塚の七夕まつり、仙台の七夕まつり、埼玉小川町の七夕まつり、日本各地の行事も豪華な七夕飾りがひしめき、ことのほかはなやかです。

わが家でも、私はずどこからか七夕飾り用の竹を手に入れてくるところから始まります。近く遠くの花屋さんや園芸店、最近ではホームセンターなどから購入してきます。

竹をリビングの真ん中に据（す）えて、短冊（たんざく）や飾りものを次々と付けていきます。二日も三日もかけて飾り付けています。家族みんなが、短冊を書き、飾り付けているようです。毎年やっています。

いつしか、七日の前後の晩、星空を眺めるようになりました。天の川をはさんでその東側にある「わし座」、相対する位置の「こと座」、それぞれの一等星が「アルタイル」と「ベガ」。その間に大きく羽を広げた形の「白鳥座」、その一等星「デネブ」。星空のスペクタクルを楽しんでいます。

地球という星の上で、宇宙という奥知れぬ空間の中で、しかも刻々と動く季節季節の星空に心の慰みを得、未来への期待を願う、とりわけこの七夕の

夜心から祈ってみませんか、家族みんなで。

牽牛星と織姫星 けんぎゆうせい と しよくじよせい

中国伝来 ちゆうごくでんらい 風習 ふうしゅう

埼玉小川町 さいたまおがわまち 豪華 ぎょうか

△補充トレーニング▽

- ① この文章の中に、次の問いに対する答えに当たる部分をマーカーで記してみよう。② また、そのマーカーで記した部分を抜き書きしてみよう。

問 i 広辞苑(こうじえん)では「七夕」のことをどのように説明していますか。

問 ii 日本各地の豪華ではなやかな七夕飾りが紹介されていますが、それはどこだと言っていますか。

問 iii 筆者である「私」は、竹をどこから「購入」していますか。

問 iv 「私」は七夕飾りをどのようにして作っていますか。

問 v 見上げた星空に見えた「七夕祭り」に関する星座は何ですか。また、それらの星座のなかの一等星は何ですか。

〈向上トレーニング〉

① 文章の最後の部分をもう一度読んでみましょう。

地球という星の上で、宇宙という奥知れぬ空間の中で、しかも刻々と煽動している営みの中で、しかし人の世の時間の流れの中で、しばしゆつくりと星空を眺めるのも悪くはないものです。

季節季節の星空に心の慰みを得、未来への期待を願う、とりわけこの七夕の夜祈ってみませんか、家族みんなで。

② 次の問いに答えましょう。

問 i 星空を眺めている「私」はどんなことに思いを広げていますか。自分なりに感じることを自由に書いてみましょう。

問 ii 七夕の夜、どんな願いをしたいと思いますか。自由に書いてみましょう。